

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和6年1月10日

事業所名： オリオン

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	確保できている。1階、2階の計6部屋を活動毎に分ける等の配慮をしながら実施している。	はい:47名 わからない:3名	空間の構造化を充実させ、個々の特性に応じた空間へとしていけるように努める。
	2	職員の適切な配置	出来ている。出来るだけ基準プラス1名は配置できるようにし、良い支援を心がけている。	はい:40名、どちらともいえない:1名、 わからない:8名	引き続き、同じように努めていく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	バリアフリー化は完全にはできていない。視覚支援や空間の構造化により児童が過ごしやすい配慮を心がけている。	はい:45名、わからない:5名	可能な限りのハード面の整備と、個々に応じたソフト面の配慮に努めていく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	事業所内の毎日清掃、送迎者の定期清掃等、しっかりと実施している。空気清浄機の設置もしている。	はい:45名、わからない:5名	現状の内容を引き続き実施していく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	少しずつだが進めている。会議の進め方や、まとめ方などをもっと工夫することでスムーズに進んでいけると考えている。		最善のやり方を常に考えながら実施していく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価は受けていない。		今後検討する。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部研修、コンサルティング、オンライン研修等、内容に応じてうまく実施できていると思う。		現状の内容を引き続き実施していく。また、階層に合わせた研修会の参加等も検討する。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	コンサルティングの良い影響もあり、アセスメントにおける質が上がってきている。計画へも落とし込んでいると思う。		現状の内容を引き続き実施し、さらにアセスメント力と支援力を高めていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	実施している。個々の能力に応じた参加の仕方にも配慮しながら計画している。	はい:50名	現状の内容を引き続き実施していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	出来ている。具体的な支援内容となるように、短期目標をしっかりと計画立てている。		現状の内容を引き続き実施していきながら、エビデンスに基づいた具体的な内容を入れ込めるように努めていく。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	出来ている。意思決定を大切にしながら、支援を実施している。ペアレントトレーニングも意識しながらすすめている。	はい:48名、わからない:2名	現状の内容を継続しながら、更なる専門性の向上へと繋げていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	主担当職員を中心とし、全員で立案と確認をしている。意見が言い合える環境はある程度できていると思う。		現状の内容を継続しながら、全体・個別活動のバリエーションを増やしていけるように努める。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間の長い休日や長期休暇は、外出支援を取り入れる等工夫をしている。平日ももちろんそうだが、児童が退屈しないようなプログラムになるよう配慮している。	はい:46名、わからない:3名	楽しく遊び、楽しく学べる環境を常に心掛けて運営をしていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	全体活動においては月間予定を出している。個別プログラムにおいては同じことを繰り返し実施することの大切さもある為、固定化されることもある。		現状の内容を引き続き実施しながら、児童の成長とともに、臨機応変に対応できるような知識と対応力を身に付けていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	徹底している。受け入れ前の確認、一日の振り返りを実施し、不在職員にもわかるように記録、必要に応じて連絡を入れている。		現状の内容を引き続き実施していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	同上		同上
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	検証や改善はPDCAを意識しながら実施し、記録においてもダブルチェック体制で確認している。		アセスメントの質の向上を目指し、更に正確な記録を残せるように努めたいと思っている。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	出来ている。		現状の内容を引き続き実施していき、その都度の見直し等があれば積極的に実施していこうと思う。	
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	正確な情報の提供と共有が出来るように、管理者、児童発達支援管理責任者、現場職員のうち2名が出来るだけ出席できるようにしている。		現状の内容を引き続き実施していく。事業所間等の繋がりをもてるように努めていく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	連絡体制の整備は出来ていない。		必要に応じて、積極的に連携を実施する。
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	連絡体制の整備は出来ていない。 保護者との連絡体制は常にとれている。		同上
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	特別支援学校との情報共有は出来始めているが、保育所等との連携は出来ていない。		連携が出来ていないところへの積極的なアプローチを心がけていく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	同法人の場合は出来ている。それ以外については、要望があれば情報提供しているが、こちらからは積極的にしていないのが現状である。		横の繋がりを意識しながら、こちらから積極的に連絡を入れていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	出来ていない。		研修の受講を積極的に実施したい。 そのうえで繋がっていただけたらと思う。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	出来ていない。	はい:12名、どちらともいえない:4名、 いいえ:2名、わからない:30名	どのような交流の仕方があるかを考えながら繋がりを作っていただけたらと思う。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	出来ていない。		法人では実施しているが、事業所では出来ていないため、今後検討が必要となる。
	保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援内容においては口頭や書面、必要に応じてLINEも使用している。利用者負担等においても同様に実施している。	はい:50名
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		出来ている。保護者と顔を合わせて、ゆっくりと時間をとり、お伝え出来るように心がけている。	はい:50名	現状の内容を引き続き実施していく。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施		毎月の勉強会を実施している。その他、必要に応じて個別での対応等、時間をとれるようにしている。	はい:43名、どちらともいえない:2名、 いいえ:1名、わからない:3名	現状の内容を引き続き実施していき、個別での困りごとへの対応等も色々と考えていく。
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		面談、送迎または電話等で必要に応じて実施している。	はい:50名	現状の内容を引き続き実施していく。
5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		実施している。送迎時にお聞きすることが多く、必要に応じて内容を持ち帰り、職員間で検討等をしたうえで保護者へ返答している。	はい:49名、わからない:1名	現状の内容を引き続き実施していき、職員として返答しうるだけの知識の取得も目指す。
6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		出来ていない。	はい:27名、どちらともいえない:3名、 いいえ:3名、わからない:19名	保護者会は現状開催しない。ただ、毎月の勉強会や法人での施設見学会等、保護者が集まれる機会の提供は常に実施している。
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		管理者を中心としてその日の内に解決。その日の内に報告書の作成や対応策の周知を実施している。保護者への報告において、時間が遅くなるようであれば後日にまわすこともある。	はい:42名、わからない:8名	現状の内容を引き続き実施していく。
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		毎日の送迎時での口頭説明に加え、必要に応じてノートへの記載やLINE、写真の送付等、イメージし易い配慮をしている。	はい:48名、わからない:3名	現状の内容を引き続き実施していく。
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		法人広報誌を年2回発行している。事業所での会報はないが、月間予定を出す等している。	はい:44名、どちらともいえない:2名、 わからない:4名	現状の内容に加え、HPの充実をはかる。
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応		ファイリングしての保管、必要に応じて鍵付きの場所へ保管している。内容を詳しく記載した同意書の作成と説明をし直した。	はい:48名、どちらともいえない:1名、 わからない:2名	現状の内容を引き続き実施していく。 取り扱いについては、年1回以上の説明の機会を設ける。
1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	作成済みである。	はい:43名、わからない:7名	内容をもっと精査し、常に最新ののものにするよう努める。周知徹底の仕方についても検討を重ねるよう努める。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回の避難訓練等を実施している。児童へ対して意識づけられるように学習の中にも取り入れられている。	はい:43名、どちらともいえない:1名、 わからない:7名	現状の内容を引き続き実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	年1回以上の研修会と毎月の委員会等を実施している。外部研修へも積極的に参加している。		現状の内容を引き続き実施していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状実施したことはない。組織での決定の流れ等は職員へ周知している。保護者へは説明と同意書をいただいている。		現状の内容を引き続き実施していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	対象児童がいない。		対象児童がいない。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集の作成は出来ていない。ヒヤリハット等の共有は毎日の振り返り時に実施し、周知と今後の対応などについて話をしている。		現状の内容を引き続き実施していく。その日の内に報告書を作成し、翌日から気を付けていけるように努める。